

津久井城跡

本城曲輪群

(相模原市津久井町No.17遺跡)

調査期間 20080416～20080531

所在地 相模原市津久井町根
小屋字城山、太井

時代 中世



作成日:20080825

概要

今回の調査は、神奈川県津久井土木事務所による県立津久井湖城山公園整備事業のための埋蔵文化財発掘調査です。トレンチ(長方形の調査区)を20本設定して調査しました。

津久井城は城山と呼ばれる山全体を利用した、戦国時代の後北条氏の山城です。平時には麓付近で生活し、戦の時に山城に登り備えるもので、このような城郭は「根小屋式城郭」と呼ばれています。豊臣秀吉の小田原攻めの時に落城し、廃城となりましたが、現在も土塁(どるい・土を盛り上げてつくった土手)・塹堀(たてぼり)や曲輪(くるわ・土塁や堀で区画された平地)などの遺構が良好に残っており、江戸時代に作られた絵図も伝わっています。

今回調査を行ったのは山城の山頂主体部である「本城曲輪群」です。土塁に囲まれた中心部である「本城曲輪」とその周りを帯状に囲む「米曲輪」、西側の「『米蔵』曲輪」、東側の「『土蔵』曲輪」などから構成されます。曲輪から曲輪への出入り口から石を敷いた道や道の側溝と思われる石を組んだ水路がみつかりました。「『土蔵』曲輪」では、長方形の石列と角礫や砂利を使いしっかりした造成を行った跡が見つかり、建物が存在した可能性が高いと思われます。

遺物はかわらけ(素焼きの器)や中国から輸入した陶磁



▲石敷きの道



▲石組水路

器、常滑(とこなめ)や備前(びぜん)で作られた陶磁器、小柄(こづか・刀の鞘に差し込む小刀)などが出土しています。出土遺物のほとんどは戦国時代 16 世紀のものですが、奈良・平安時代の須恵器や瓦も少量出土しています。



▲土蔵曲輪 長方形の石列